

新年、新たな出発



玄関前にて記念撮影

一月五日、令和八年の仕事始めがありました。朝、ストレッチ体操、ラジオ体操を行い、玄関前にて全社員（東京、大阪の営業マンは除く）で記念撮影を行い、その後、食堂に移動して清水社長の年頭のお話がありました。締めにお茶で乾杯をして通常業務に入りました。

また、朝礼での全員唱和は、従来住友電工の田中良雄さんの詩、「私の願い」を行なっていました。新年より弊社の社訓を唱和することになりました。社訓を毎日唱和することにより、タニサケ社風を全社員が徹底して仕事に生かしていきます。

タニサケ社訓

- ① 私たちは「他者中心」を心掛け、人に喜ばれる行動をします。
- ② 私たちは一日一日を「よりよく」前向きに生き、改善を積み重ねて日々進化します。
- ③ 私たちは何事も即行で行い、お客様に感動を与えます。
- ④ 私たちは明るく、楽しく、面白く「やる仕事」をし、成長し続けます。

鍵山秀三郎さんに学ぶ

凡事徹底

平凡なことを徹底してやると、平凡の中から生まれてくる非凡が、いつかは人を感動させる。

『一日一話』鍵山秀三郎著より



農薬のコロソ粒剤



ゴキブリ追放宣言

尾崎将司さんから学ぶ

ゴルフ界のレジェンド尾崎将司さんが、昨年十二月に亡くなられました。男子ゴルフ国内では最多の通算一一三勝という大記録を積み上げ、努力家としてもよく知られた尾崎さんは、ゴルフや人生に関する数々の名言を残されていますので、ご紹介させていただきます。

「二〇〇を切るのに趣味を捨てた。九〇を切るのに仕事を捨てた。八〇を切るのに家族を捨てた。七〇を切ったらすべてが返ってきた」。それだけ多くのものを犠牲にしてゴルフと真剣に向き合ってきた証拠でもあると思います。

尾崎さんは長くプロゴルファーとして活躍されましたが、それには「ゴルフは心技体ではなく、体技心の順なのだ」。体力がなければ技術は身につかず、技術が充実して初めて、勝利に向けた精神が磨かれると説いています。その道を究めた人だからこそ、説得力がある言葉ではないでしょうか。

また、「肉体は歳をとっても、情



（株）河野メリクロン様から贈られた花を持つ清水勝己社長

熱は歳をとらない」。年齢を重ねても勝ち続けてきた尾崎さんはまさに、情熱の人であったのでしよう。近年では後輩の指導にも力を入れ、「ジャンボ尾崎ゴルフアカデミー」を設立し、多くの強いプロゴルファーを育てられました。尾崎さんが、日本ゴルフ界に与えた影響は計り知れないものであり、記録にも、記憶にも残るレジェンドであったと思います。



尾崎将司さん

DCMホールディングス(株)

ダイキ(株)の創業者

大亀孝裕様に学ぶ

全社員が商店主

サラリーマンであろうが、自営業者であろうが、経営者であろうが、プロとして仕事をして、その対価として収入を得ている限り、誰もが「商店主である」という自覚をもたなければならぬ。どんな形であつても、あなたが提供する労働力はあなたの商品であり、あなたが受け取る給料は、それに対する代金なのである。

悲しいかな、企業で働くサラリーマンの多くは、働きに応じて給料も増減するということがあまりないためか、商店主であるという自覚を持ちにくい。しかし、サラリーマンであつても、給料に見合う働きができれば、給料を受け取る根拠が危うくなる。このことは、肝に銘じなければならぬだろう。

商店主という自覚があれば、まず、勝てる商品づくり、付加価値の高い商品やサービスの開発に取り組みなければならぬ。利益を確保するために、収支に見合った資金の使い方

を工夫することも重要になる。人件費の大きさも知らねばならない。

知識を磨き、より高度な仕事ができるよう努めながら、人を育てていくことも大きなテーマの一つである。顧客とのつきあい方、向き合い方も大切な事柄だろう。

「企業内商店主」として立派に成長できたとき、あなたは必ず、会社にとって有用な存在になっているはずだ。

『素人じゃけんできること(ダイキ創業者・大亀孝裕のフィロソフィー)』
PHP研究所発行より



亀の石像の横で大亀孝裕様(右)と松岡浩元会長(左) (平成26年撮影)